会長挨拶

# 平成29年度を迎えて

国大化学会会長　横山幸男（昭和49年電化卒）

今年度より国大化学会会長を仰せつかりました横山幸男と申します．どうぞよろしくお願いいたします．国大化学会は，旧学科（物質工学科）化学系同窓会の横国化学会および横浜応化会と横浜電化材化会を発展的に統合して平成19年4月の発足以来，早10年を経過し11年目に突入しました．ここに新たな節目を迎えて会長としての役割の重要性が増したと認識する次第です．今年春に発行のニュースでも述べましたように，国大化学会を取り巻く環境は厳しさを増すばかりであり，特に，会費収入の凋落傾向に歯止めがかからない現状を如何に打破していくか，この現実は理工学部の他の同窓会とも共通の課題であるため，それぞれ連携して情報交換を行いより良い方向性を見出したいと考えております．

国大化学会の運営上旧同窓会との大きな違いは，現役学生との接触の機会を多く設けている点にあります．具体的な内容を改めて述べますと，①学年半期ごとに行われる成績優秀者表彰の副賞贈呈（実際は教育担当副学長銘のA5サイズの表彰状のみであるため，ヤッタ感を演出するため相当の図書券を副賞としている），②二年次生化学EP（教育プログラム）配属者歓迎懇親会の開催（化学・生命系学科新入生は二年次当初に希望または成績により化学EPと化学応用EPとに振り分けられるため），③三年次生対象の「OB・OGと語る会」（及び懇親会）の開催，四年次生対象の「先輩を訪ねて」の学生派遣（先輩の就職先を訪問し，種々の対談を通して将来の自分の姿を垣間見る企画），④学会参加費の補助（学生発表者の参加登録費を補てん），⑤大学院生対象のドクターコーススタートアップ支援（博士課程後期進学者のうち外部からの資金援助を何ら受けていない者を経済的に支援するため），⑥卒業謝恩会実行委員会補助，⑦ChemDrawライセンス使用料補助などが主なものです．これらのうち学生支援に直接かかる費用は過去8年間平均で75万円程度であり，また，上の⑤が本格化した以降は毎年平均130万円の支出負担となっています．これら学生支援は，本会の統合基金及び会員諸氏による寄付金を主な財源にしているため，毎年このくらいの寄付金を集めない限り，そう遠からず立ちいかなくなることは明白です．私が見る限りでは，これら学生支援を含めた同窓会活動は，理工学部の他同窓会には類を見ない活発さと確信します．会員各位はこれらの現状をご理解の上，会費はもとより是非とも寄付金をお寄せ頂きたくよろしくお願いいたします．

さて，お願いばかりでは会員諸氏の顰蹙を買うところでありますので，今後の同窓会運営について方針を述べたいと思います．まず，現役学生を含めた（特に物質工学科以降の）若い会員に同窓会の存在と意義を理解してもらえるよう考えられる策を講じることが必要であり，皆様方から広くご意見やご批判を集めたいと思います．どんな些細なことでも結構ですので，yokochem@ynu.ac.jp 宛にご一報いただければ幸いです．執行部および役員会にて審議事項とさせていただきます．また，「同窓会といったって実際は何をしているのだろう，どうせ親睦会みたいなものであろう」というような漠然とした先入観を払拭すべく，会の活動の透明化と周知を図ります．そのためには，会長一人の力ではどうにもならないのは明らかで，副会長を含めた執行部および各事業部のリーダー諸氏，学生役員を含めた執行役員会が一丸となって，会員各位に報いるよう鋭意努力して参る所存です．皆様方のご協力のほどよろしくお願い申し上げます．

副会長挨拶

# 経営的思考の導入

国大化学会副会長　鷺谷広道（昭46年 応化卒）

会員の皆様それぞれご活躍のことと存じます。この度、横山会長の補佐を務めさせていただく副会長の昭和46年応化卒の鷺谷広道と申します。さほど大きな貢献は出来ないかも知れませんが、私なりの抱負を述べさせていただきます。

＜個々の課題解決に向けて、可能なことから逐次実施する＞

国大化学会の特徴はその意義を「①会員同士の親睦と②学生支援」と会則にもあるように、比較的鮮明に打ち出してきた点が特徴と言えます。特に学生支援は総会等で皆様のご意見をお聞きしても賛同される方が多く見受けられます。それでもこの方針を具体的に実践しようとすると多くの課題（特に財務的な問題）に直面いたします。①の会員同士の親睦と言っても、人との直接的繋がりが希薄になっている現状ではこれまでとは異なる情報やサービスの提供を考えていかなくてはなりません。もう一つの柱である、②の同窓会における学生支援とはどのような事項が相応しいのでしょうか。そして、それを支える寄付が十分でない現状で、活動への賛同をいただくための広報活動のあり方はどのようにしていくべきなのでしょうか。これらメイン課題の下に総会への出席人数の減少、1990年代同窓生が極端に少ないこと、会費納入者と非納入者へのサービスの対応等、種々の課題がぶら下がっています。これまで横山会長とは会誌グループで一緒に仕事をしてきて、会長はこれら課題に正面から取り組んでみようとの意識が強い方です。私の方も一緒になって個々の課題に真摯な姿勢で取り組んでいきたいと考えております。

＜参加型同窓会をめざして＞

これまで会誌を担当してきた中で、感じてきたのは会誌原稿を公募してもほとんど集まらなかったこと、一方で直接このような原稿を書いていただきたいとお願いすると引き受けていただける方がそれなりにいることでした。私たちは同じ化学という核をベースに社会と関わっている人間の集まりですので、共有できる思いや同じような困難にも遭遇する可能性も多々あるのではないでしょうか。直接面と向かった交流が少なくなった現在でも、課題や思いを共有できる媒体は大切であると考えます。国大化学会がこれからの社会を担う学生への先輩からのコメントや会員間における発言の媒体になっていければ良いのではないかと感じております。そのための手段としては多くの同窓生がいろんな方法で参画できる同窓会のあり方の皆様からの提案をいただければ幸いです。

# 副会長就任の挨拶

国大化学会副会長　本田　清（化学・生命系学科化学 EP 代表、昭 54 年 応化卒）

国大化学会会員の皆様へ

この度、平成29年度より化学・生命系学科化学EP 代表を任命されました。私は、昭和54年に応用化学科を卒業し、昭和56年修士課程を修了後、企業に就職しました。その後、工学研究科博士課程後期物質工学専攻に昭和63年入学、平成2年に修了しました。佐藤菊正先生、井上誠一先生、宮本総先生に師事致しました。学位取得後は物質工学科の助手を経て、環境情報研究院へ移籍し、現在に至っております。その間の大学の変遷として、昭和60年４月に工学研究科博士課程の設置、平成13年４月に工学府・工学研究院および環境情報学府・環境情報研究院からなる２つの大学院の発足、平成16年４月に国立大学法人化、最近では平成26年10月に教員、職員、地域住民からなる、地域に根差したコミュニティーの「校友会」を設立しました。同窓会は、平成15年６月に横国化学会を発足し、平成19年に伝統のある横浜応化会と横浜電化材化会が横国化学会と統合し、国大化学会となり、昨年で10周年を迎えました。

大学として卒業生とのかかわりは今まで以上に重要です。大学の研究室の卒業生間の縦のつながりと同窓生の横のつながりをより強固なものにしていくことが大学と卒業生の発展に臨まれております。

大学は教育と研究を行う機関であり、学生が社会に旅立つ際の実践的な社会人教育は欠くことができません。そのために同窓会組織が担う役割は大きいと思います。そこで国大化学会の教育研究支援基金制度として、学会参加補助、ドクタースタートアップ支援などの金銭的支援や在学時から卒業生との交流を緊密にする同窓会教育としてOB・OG と語る会、先輩訪問や二年生配属歓迎会があり、在校生が同窓会を身近に感じることができる取り組みを行っています。これらの活動を堅持しつつ、さらに多くの卒業生が一堂に会し、会員相互の交流を深めることのできる機会を増やすことを念頭に横山幸男会長、鷺谷副会長、藤田副会長、そして各卒業年度および在校生から選ばれた方々とともに知恵を絞っていきたいと考えております。そのためにも会員の皆様からの新しいアイデアやご感想をぜひお寄せいただきたいと思います。また、同窓会を皆様のお役に立つ組織として利用していただくためにも27年にスタートした会員情報システム「Yokochem Network」の運用とその情報管理は益々重要になります。太いパイプライン作りにご協力ください。

今後とも皆様には貴重な社会経験や人脈を通じてのご支援をお願いいたします。